

特別  
28  
2292



門 二 8  
號 2292  
山 心

靈華圖說

愛日軒藏梓

昭和二十六年  
十一月九日購求

淡墨印迹 (Faint bleed-through text from the reverse side of the page)



夫水ノ其形ヲ變換スル。雪ヲ以テ最奇ナリトス。海  
 陸ノ氣上騰シテ雲ヲナス。雲冷際ニ臻レハ。其温ヲ  
 失<sup>シ</sup>。凝<sup>ル</sup>シテ雨トナル。氣中ニ在ルヲ以テ。一々皆圓  
 ナリ。初圓ハ至微至細。漸ヲ以テ併合シ。終ニ重體點  
 滴ノ質ヲ致ス。冬時氣升テ同雲ヲ成シ。冷ニ遭テ即  
 亦圓點ヲ成ス。冷侵ノ甚シキ。一々凝<sup>ル</sup>互<sup>シ</sup>。下零スル  
 モ其併合ヲ得ス。聊相依附シテ。大圓ヲ成サント欲  
 シ。六ヲ以テ一ヲ圍<sup>ミ</sup>。綏々<sup>々</sup>。翩々<sup>々</sup>。頓ニ天地ノ觀ヲ異

ニス。故ニ寒甚ケレハ。粒珠トナリ。寒淺ケレハ。花粉  
ヲナス。花粉ノ中。寒甚ケレハ。片愈美ナリ。凡ソ物。方  
體ハ必ハヲ以テ一ヲ圍ミ。圓體ハ六ヲ以テ一ヲ圍  
ムコト。定理中ノ定數。証ヘカラス。雪花ノ六出ナル  
エヘンモ。亦コレノミ。立春後ノ雪。ミナ五出ノ水。已  
説アレトモ。取り難シ。水已  
ニ雪ニ變スレハ。重體忽チ二十四分ヲ減シ。輕飄毳  
ノ如ク。花形萬端。都テ六出。星辰ノ芒角ノ如ク。其狀  
整正。其質潔然。實ニ賞スルニ堪タリ。其精白ニシテ。

他色ヲ雜ヘサルハ。光線ノ盡ク反射ヲ致スニヨル。  
雪モシ黑色ナラハ。四望幽暗。豈堪フヘケンヤ。西土  
ヲ驗視スルノ法。雪ナラントスルヲ天。預メ先。黑色  
ノハ。絲綴ヲ。氣中ニ晒シ。冷ナラシメ。雪片ノ降ルニ  
當テ之ヲ承ク。肉眼モ視ルヘク。鏡ヲ把テ之ヲ照セ  
ハ。更ニ燦タリ。看ルノ際。氣息ヲ避ケ。手温ヲ防キ。織  
錘ヲ以テ之ヲ箝提スト。余文化年間ヨリ。雪下ノ時。  
毎ニ黑色ノ髹器ニ承テ。之ヲ審視シ。以テコノ畧ヲ  
作。雪其形質ヲ美ニスルノミナランヤ。功用マタ少  
カラス。大要十四アリ。第一。空氣ヲ清フシ。汚濁ヲ驅  
ル。第二。已ニ氣ヲ清フスレハ。氣即チ涼爽粹純ヲ致

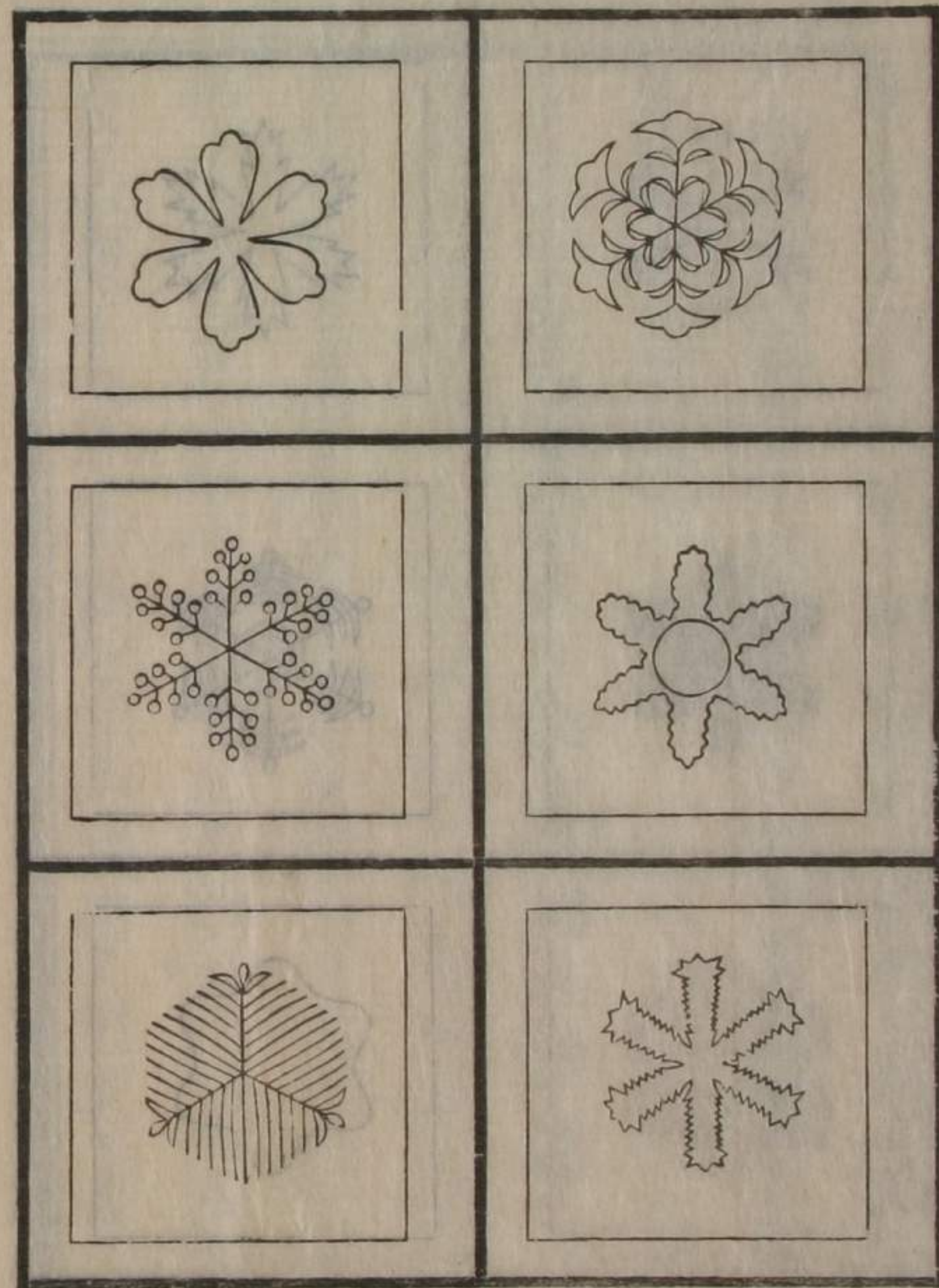
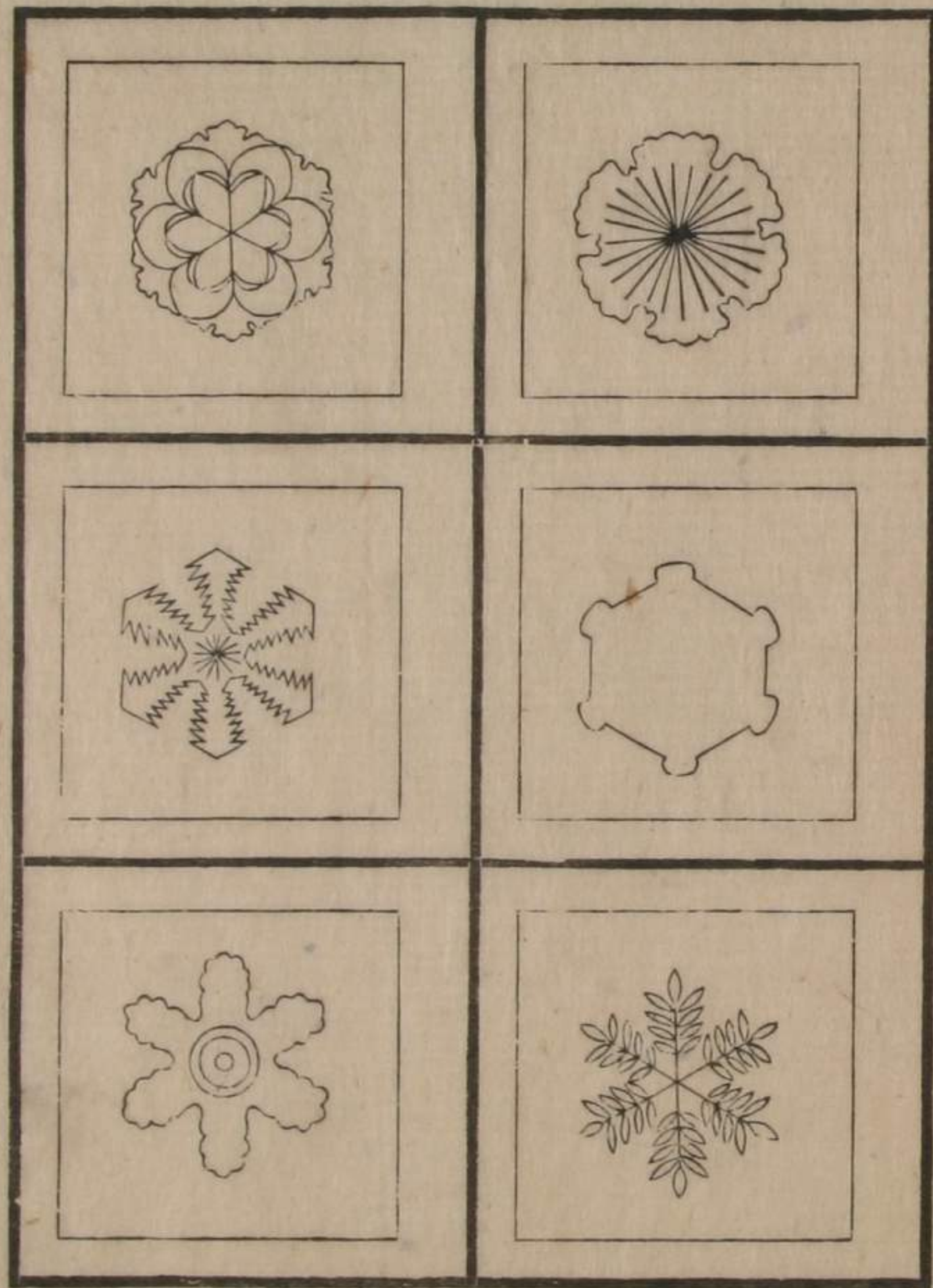
ス。第三。積雪常ニ山巔ヲ寒カラシム。故ニ升騰ノ氣  
凝集シテ水濕ヲ山澗ニ生シ。以テ江河ノ源ヲ養フ。  
第四。冬寒支體僵瘕病。雪塊ヲ取テ患部ニ擦揉ス  
レハ即愈ユ。又臘雪水甘クシテ大寒。天行時疫ヲ解  
シ。一切ノ瘡毒ヲ療ス。ソノ他諸病ニ於テ必須ツ所  
ニシテ。醫家欠クヘカラス。第五。遍地ニ覆シテ寒  
ノ土中ニ侵透スルヲ防拒ス。地中賴テ以テ寒冷ヲ  
致サス。却テ温ヲ得。故ニ草木肥茂シ。蟄虫生ヲ得。又

雪上ニ橇ヲ走ラシ。犬鹿ヲ驅使シ。重ヲ引キ速ニ致  
ス。故ニ北陸雪多モ害ナク利アリ。第六。其質ノ輕キ。  
毳ニ勝ル。故ニ冬時ノ蔬穀。裹脆ナルヲ損セス。却  
テ之ヲ擁包シテ。寒ニ傷ラルヲ防ク。第七。窖藏ノ  
冰雪。夏月烏魚諸肉ノ敗餒ヲ防キ。水漿ヲ冷ヤシテ。  
收儲暑ヲ延クコトヲ得。イハユル。冰雪冬時コレヲ  
藏シ。夏時コレヲ開キ。食肉ノ祿。喪祭賓客用ヒサル  
コト無シ。コレ亦輔相調燮ノ一事。トコレナリ。第八。

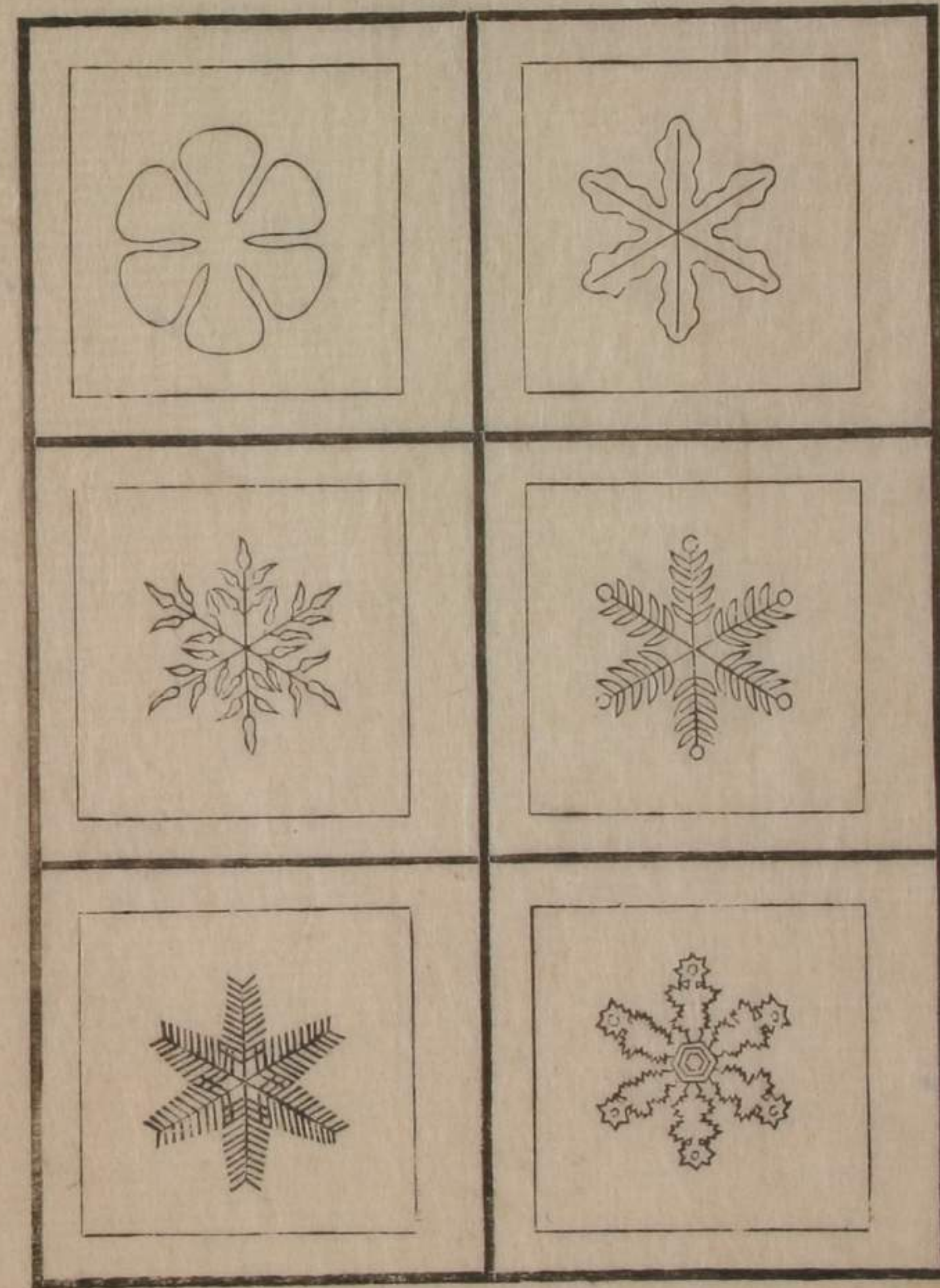
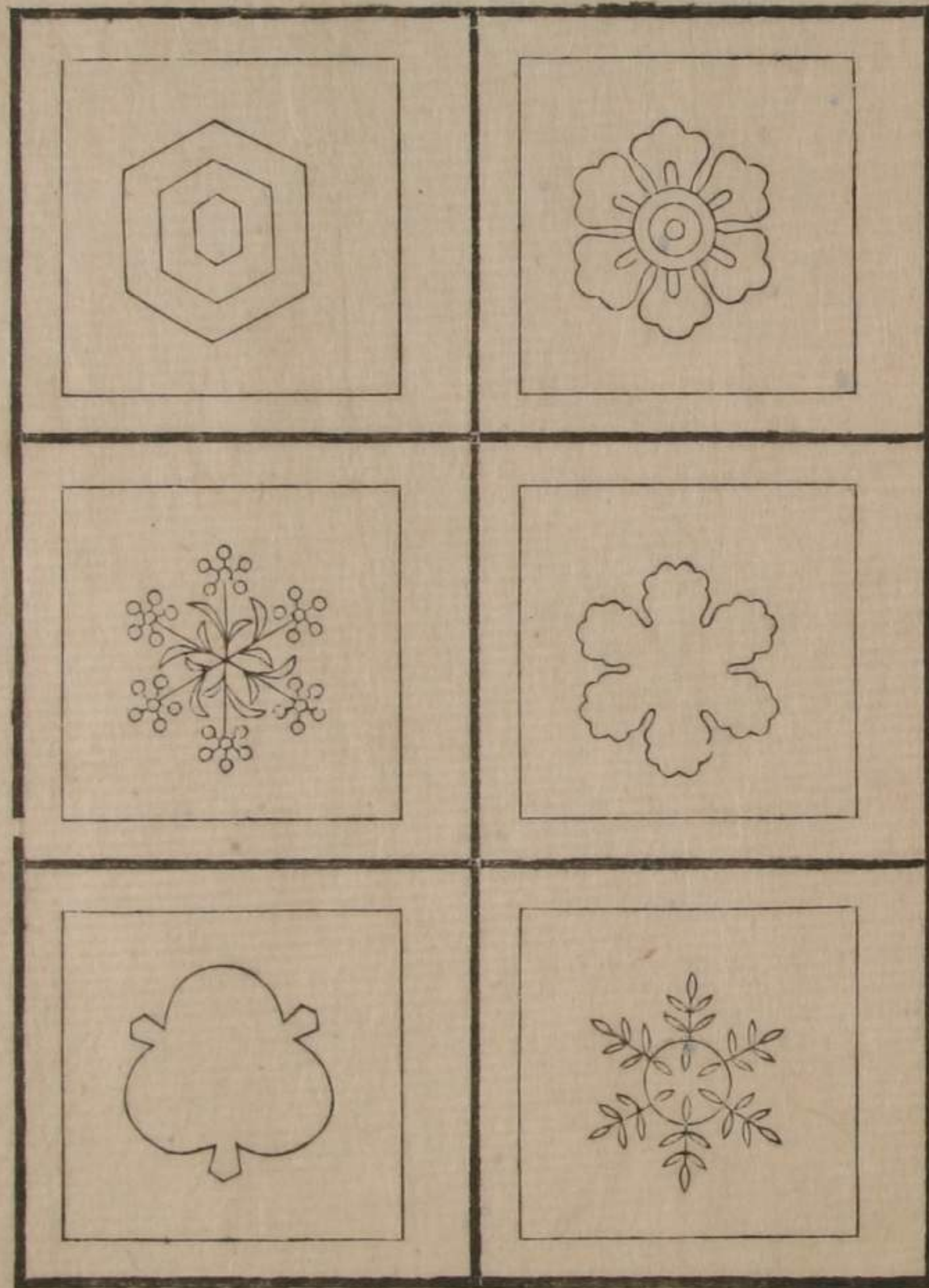
冬日地中ヨリ發スル蒸氣ヲ遏抑シ。冬天以テ暗晦  
ヲ致サス。若冬日ノ地氣ヲシテ。恣ニ空ニ滿タシム  
レハ。冬日更ニ昏暗ヲ致スヘキナリ。第九。雪中ニ諸  
物ヲ生育スル。酸塩活機ノ氣ヲ包含ス。故ニ土地ノ  
肥沃ヲ醸ス。第十。雪輝ヨク諸物ヲ照明ス。故ニ北邊  
ニ於テ。冬日ノ暗室ヲ照シ。冬夜ニ明ヲ與フ。第十一。  
積雪尺ニ盈レハ。遺蝗ヲ地下ニ驅ルコト一丈。其春  
必霖霖ノ小雨アリテ。潤澤澆洽シ。以テ天下ノ豊年

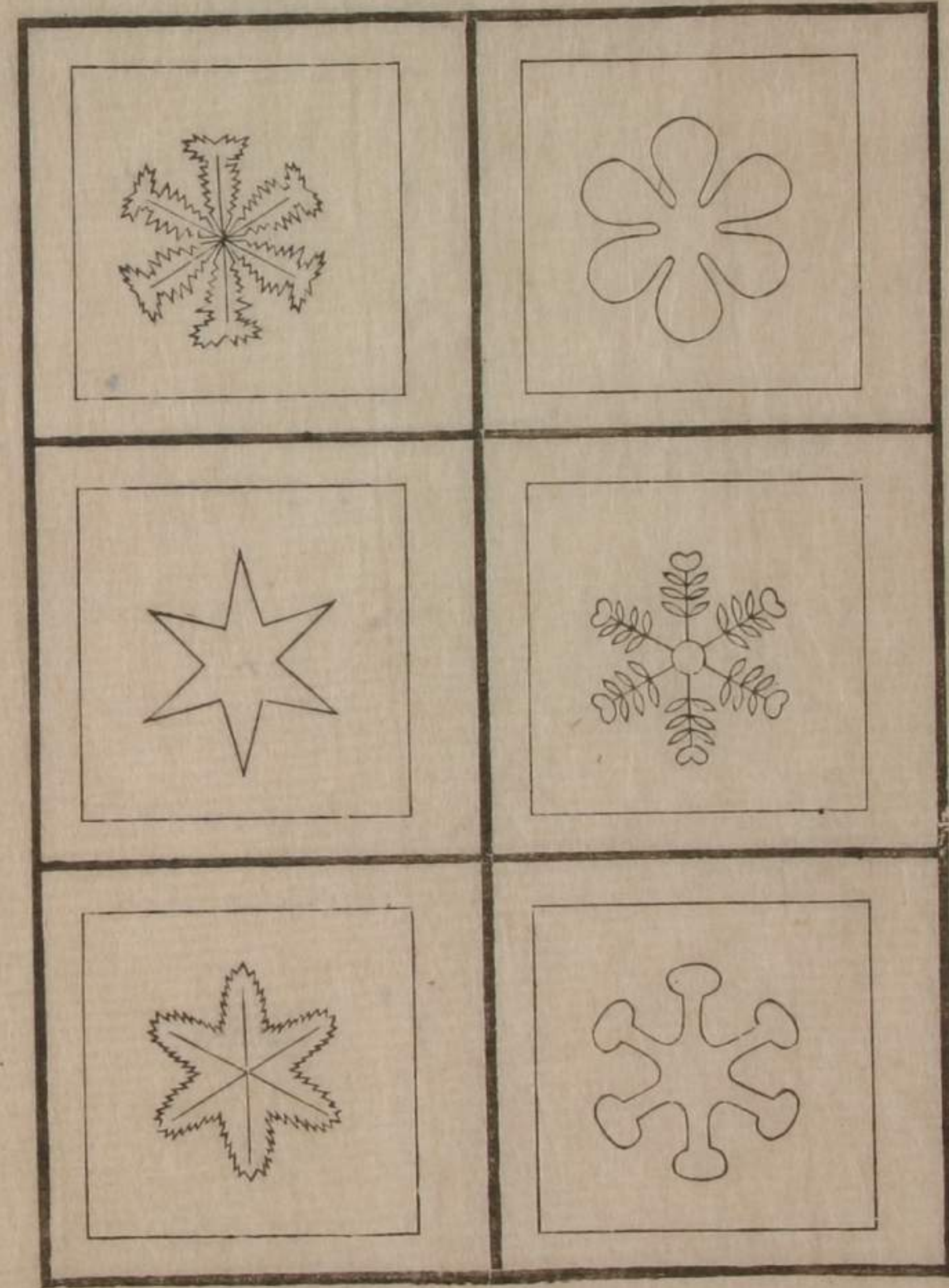
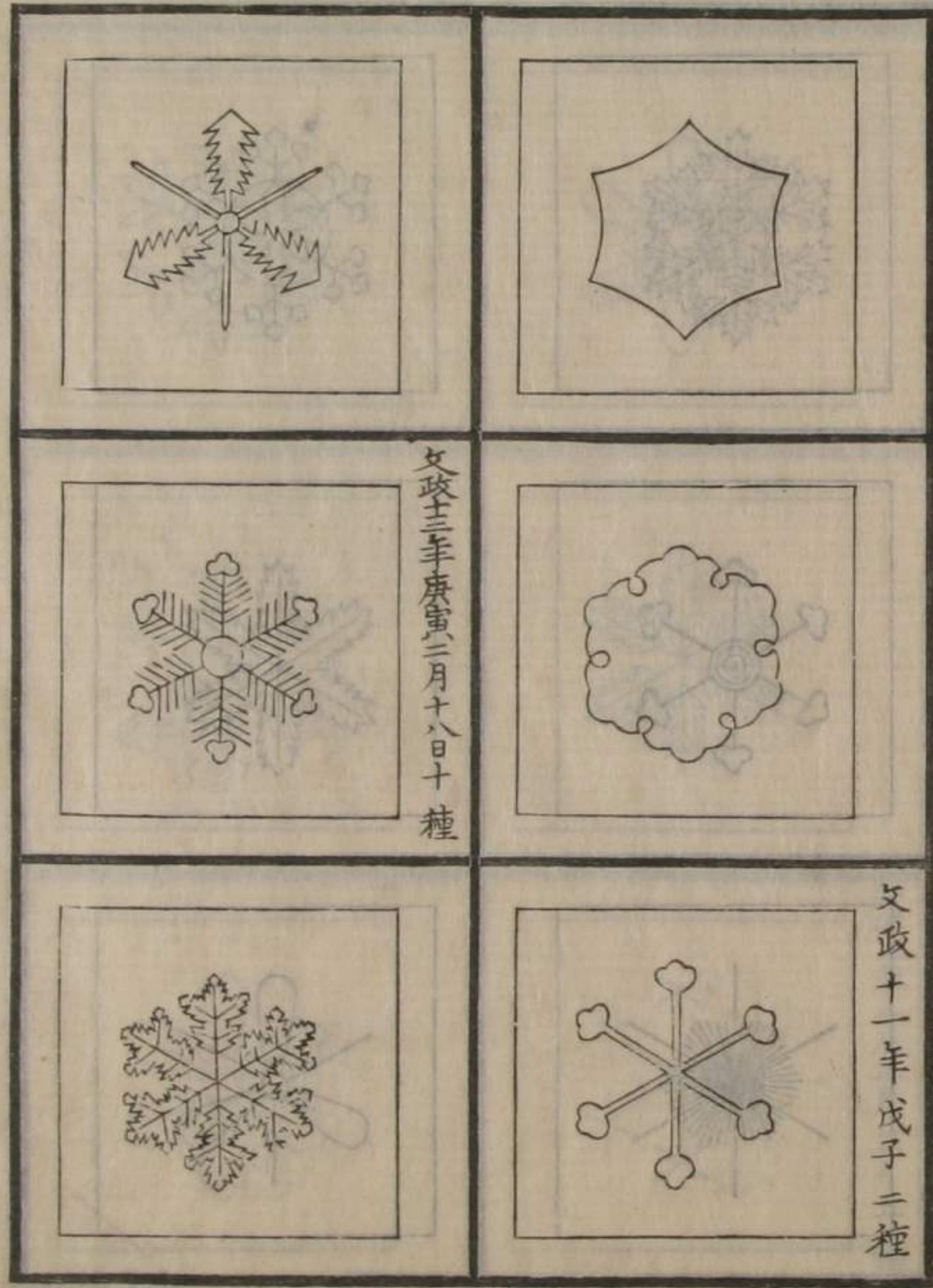
ヲナス。第十二。學者雪ニヨリテ。理學ノ諸支ヲ悟リ。  
詞人畫工ニ至ルマテ。詩賦ノエヲ添ヘ。山川ノ美景  
ヲ畱セシム。第十三。雪ノ潔瑩比スヘキモノ無ク。能  
ク汚濁ヲ洗濯シ。臭腐ヲ驅除ス。故ニ中華西洋。人ノ  
廉潔。物ノ清淨。必スコレヲ之ニ比ス。我邦由伎ノ  
名モ。亦此義ナリ。第十四。諸山ノ雪。漸ヲ以テ融釋シ。  
常時諸川ニ適宜ノ冷水ヲ送り。曾テ乾涸ヲ致サス。  
以上。人命ノ係ルトコロ。最大。夏月ハ冷。冬月ハ温。熱ヲ

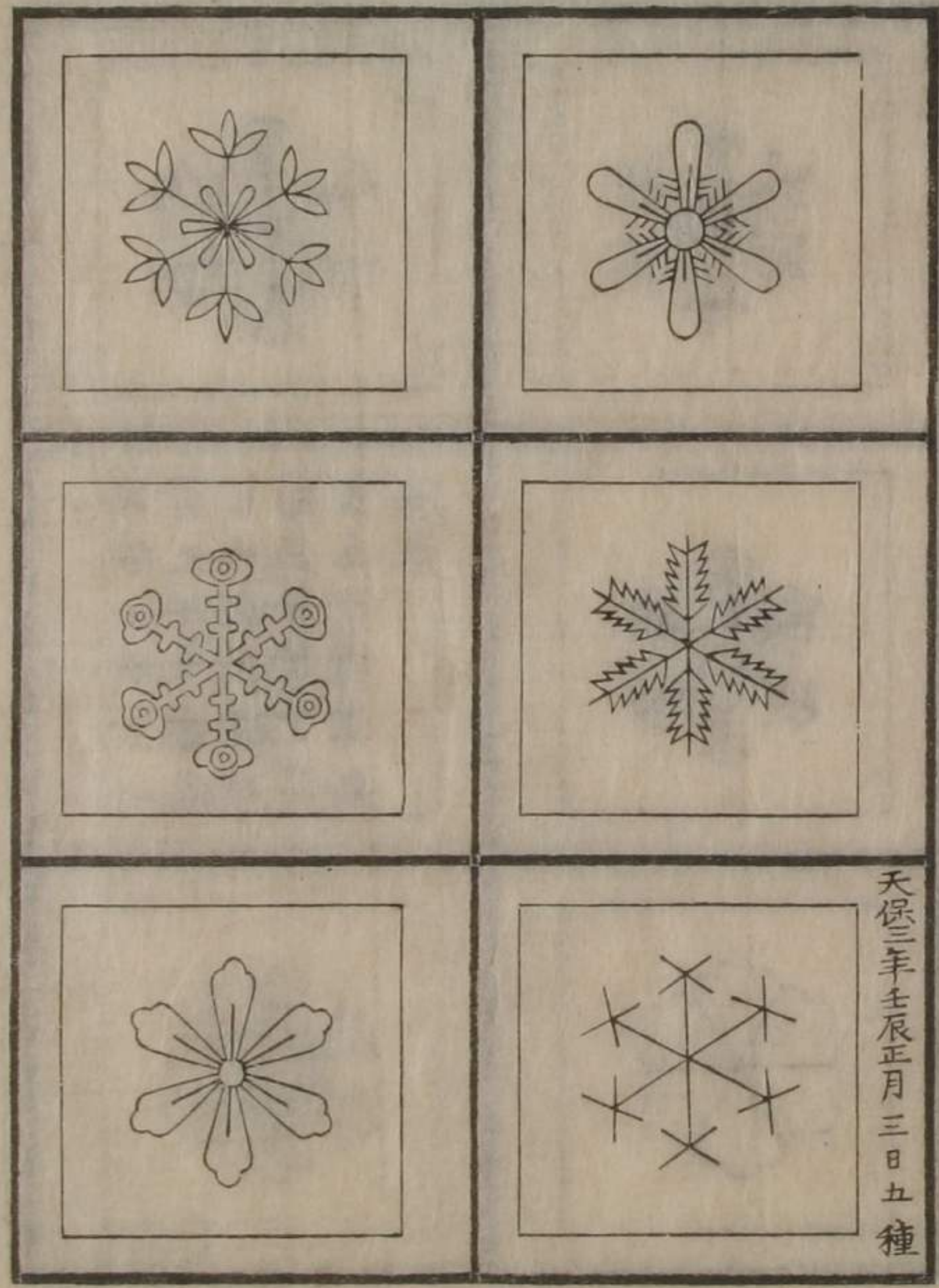




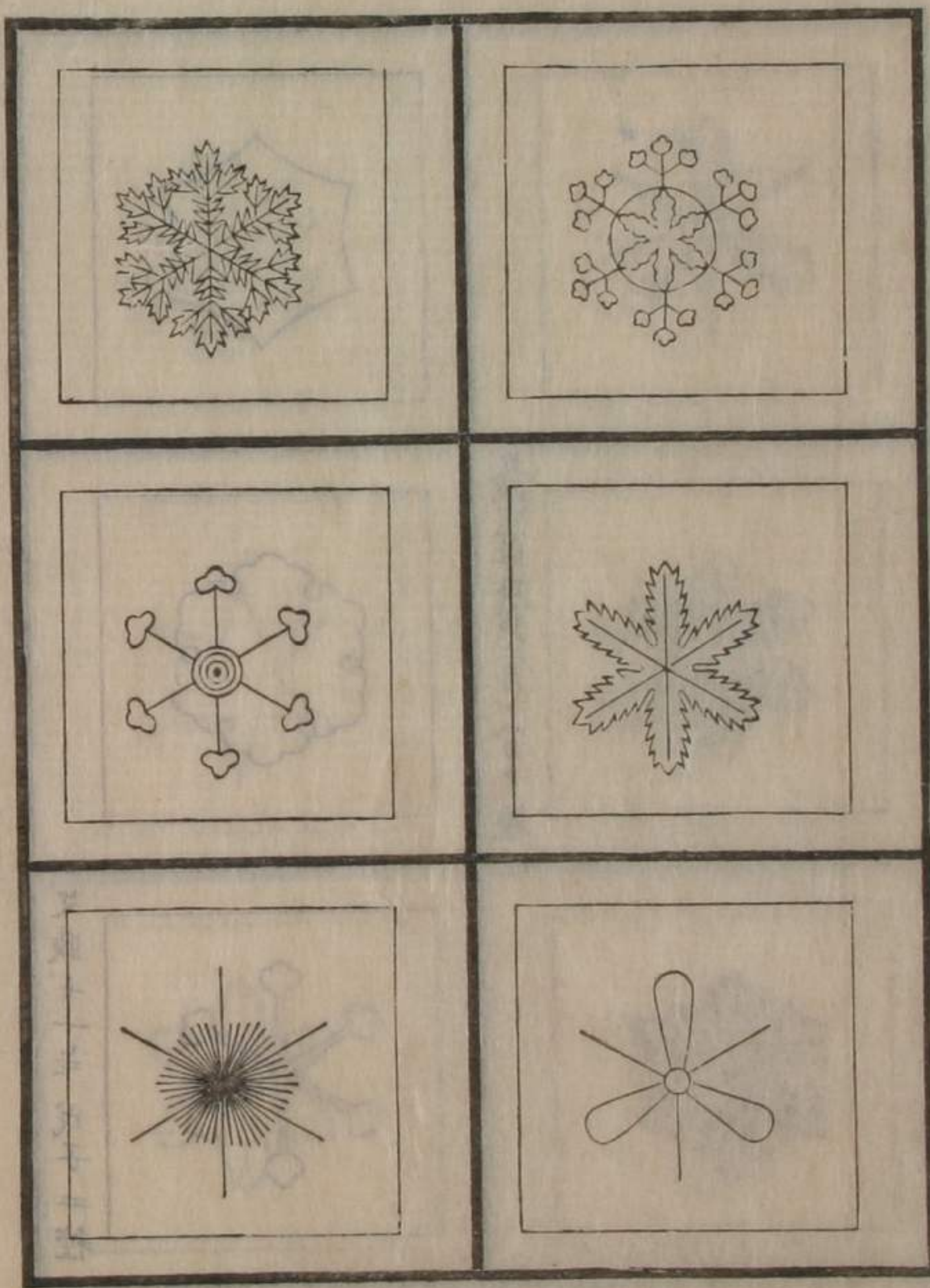


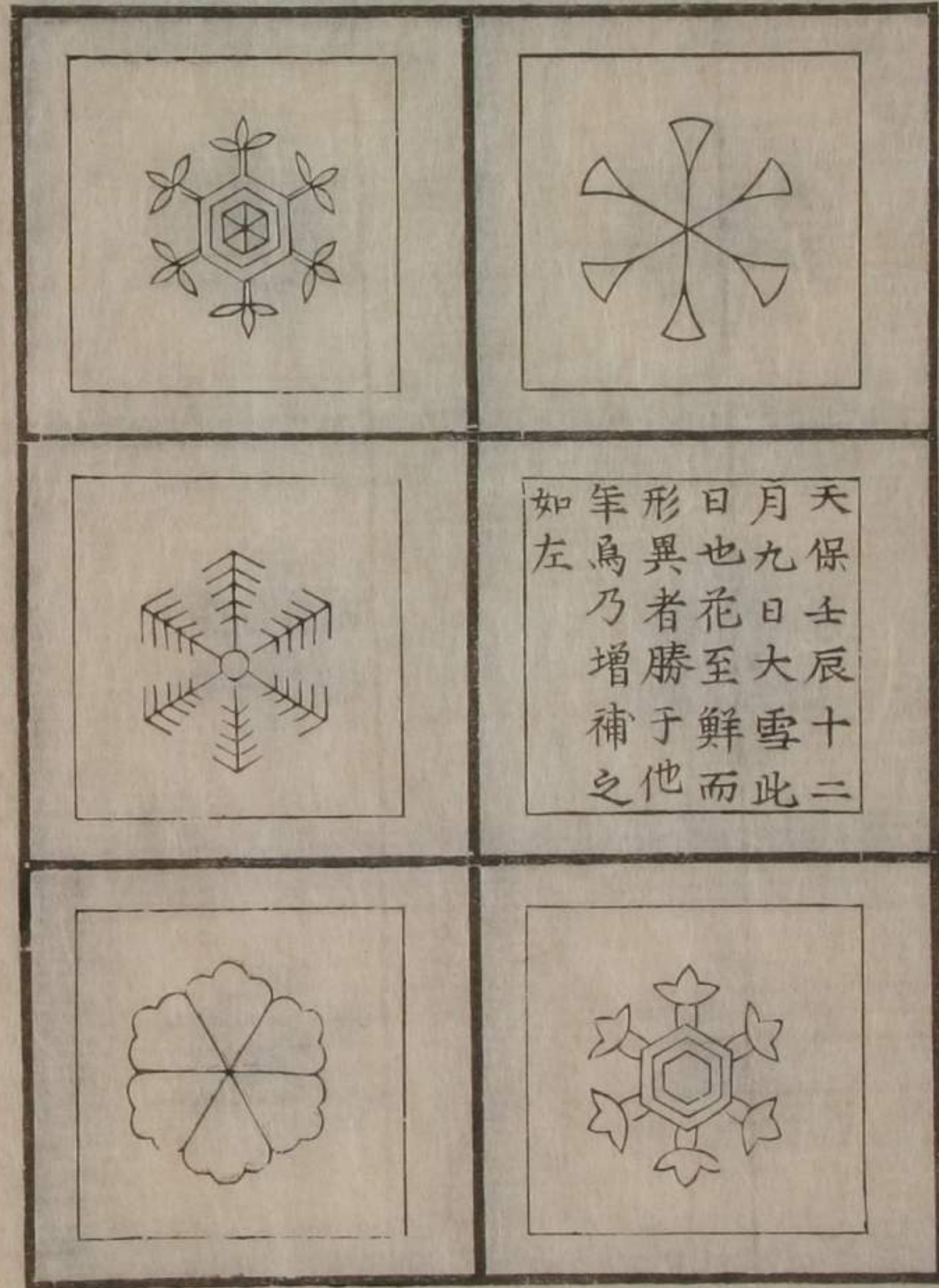
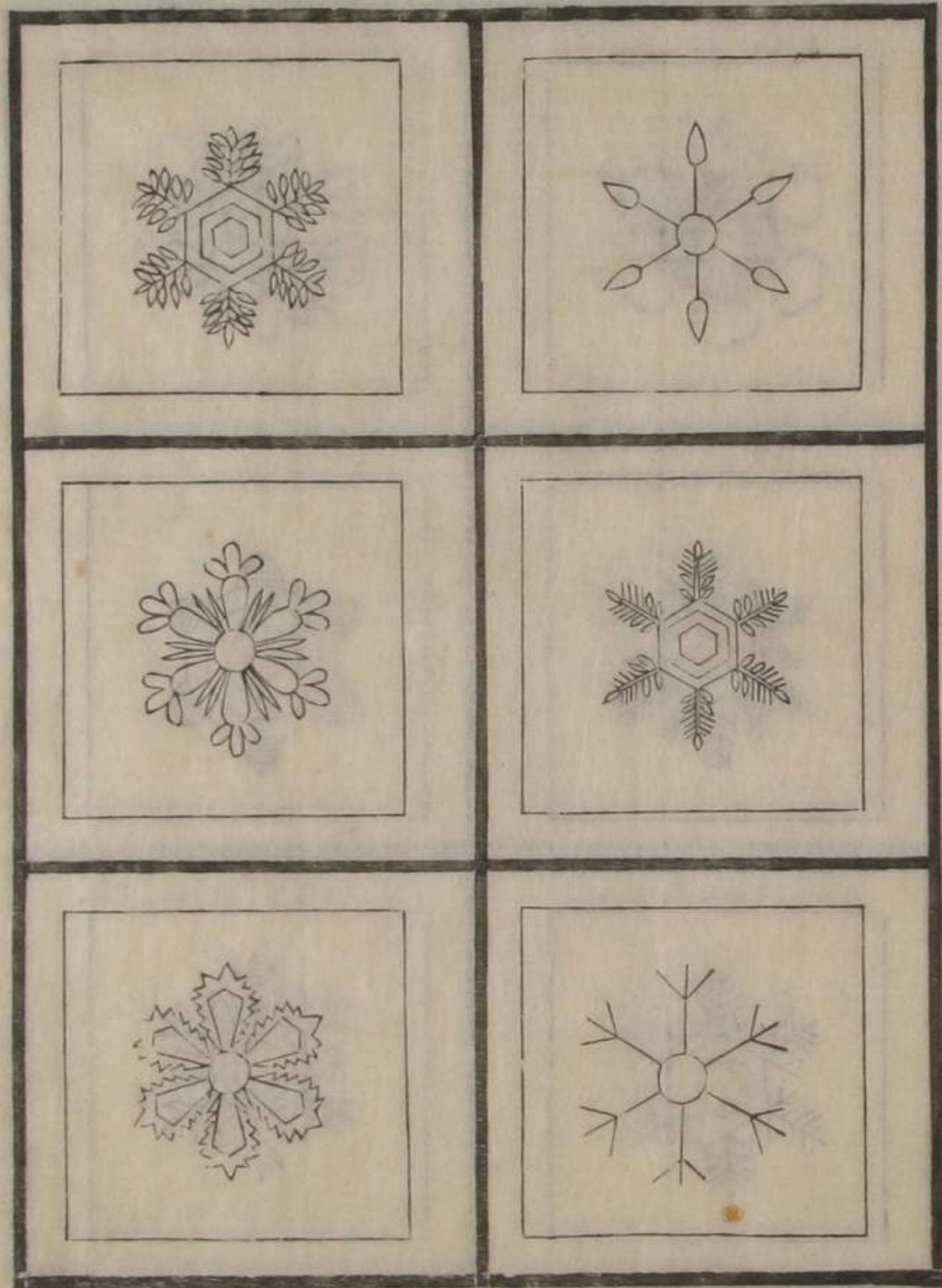




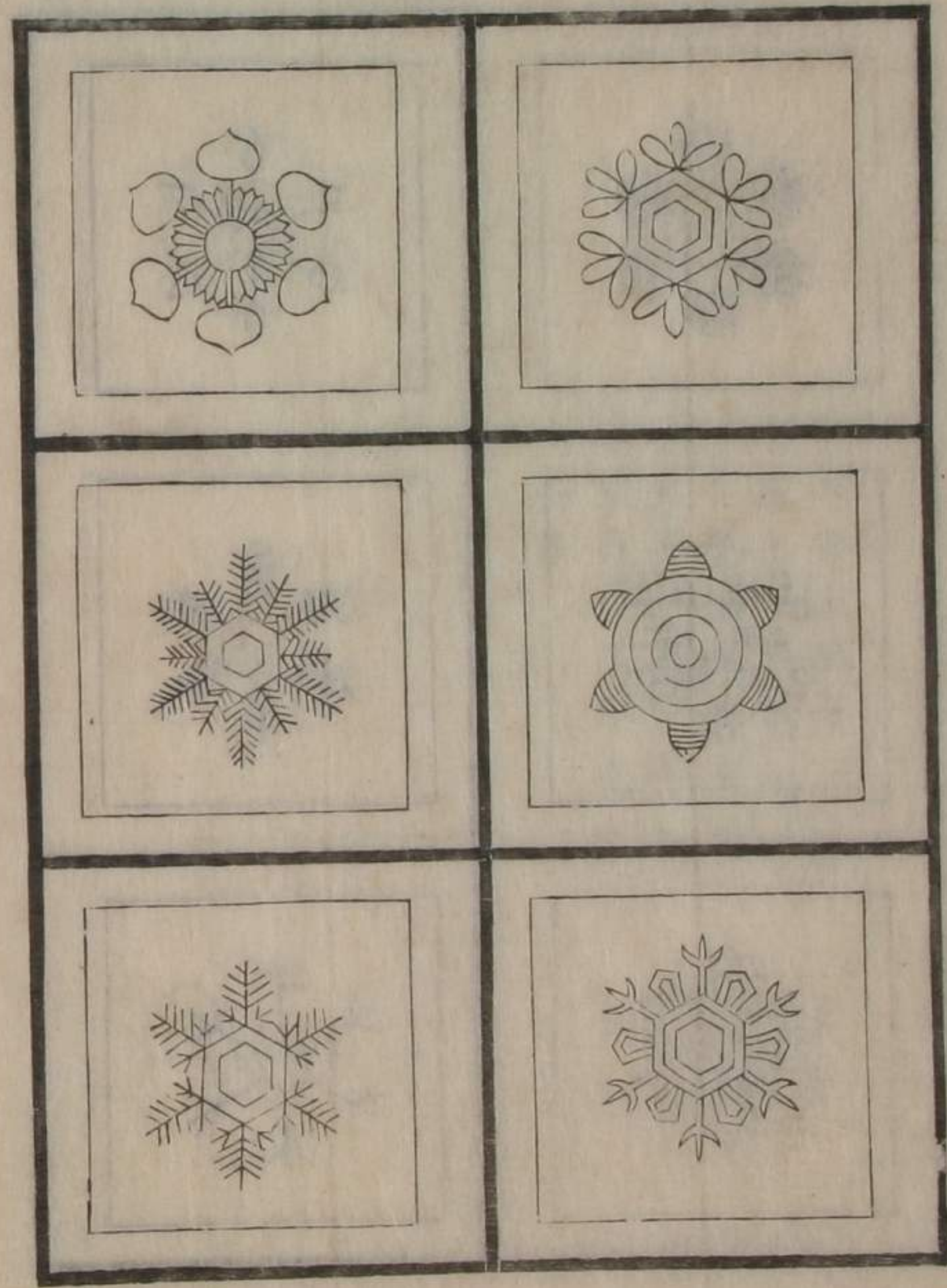
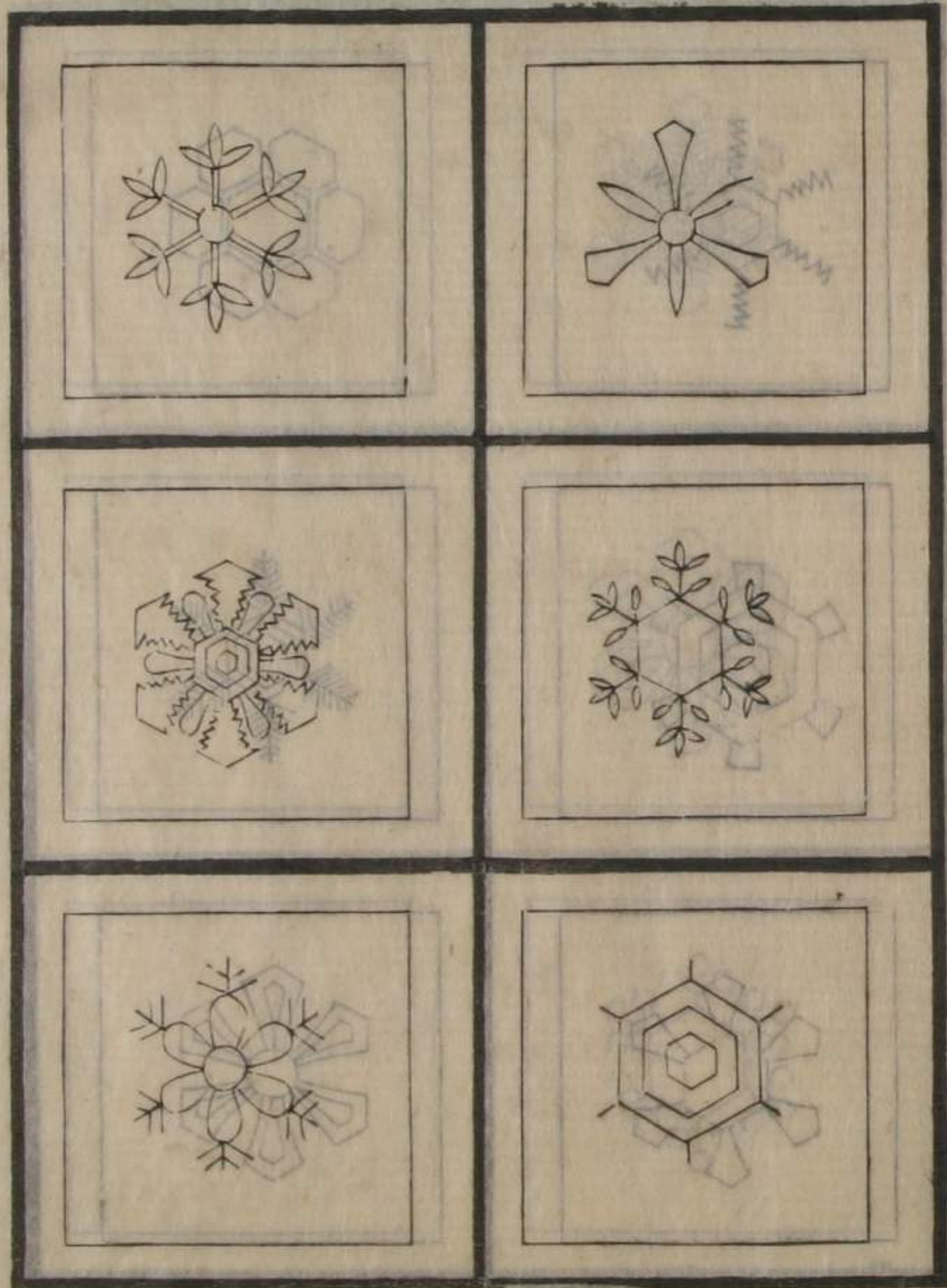


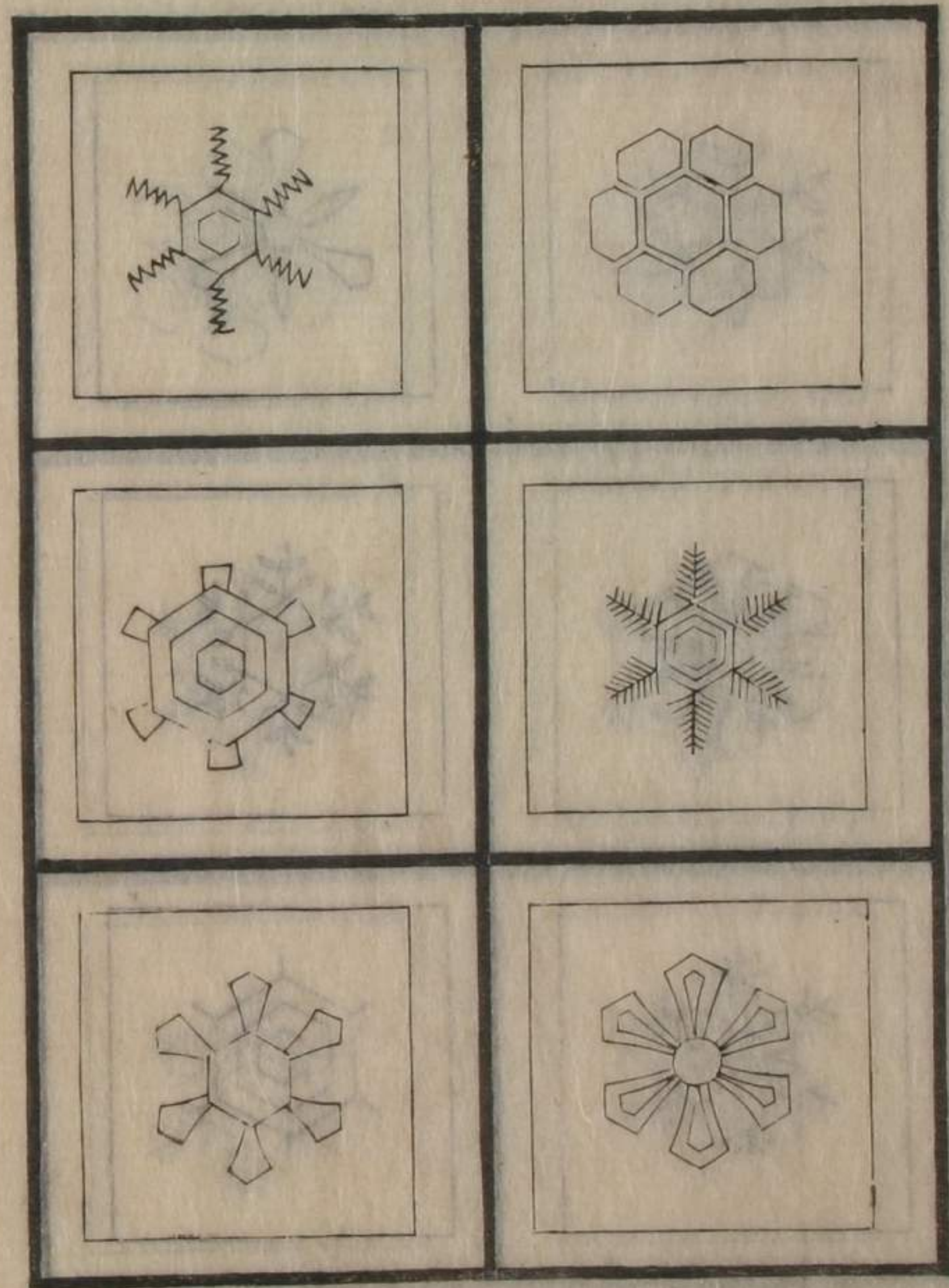
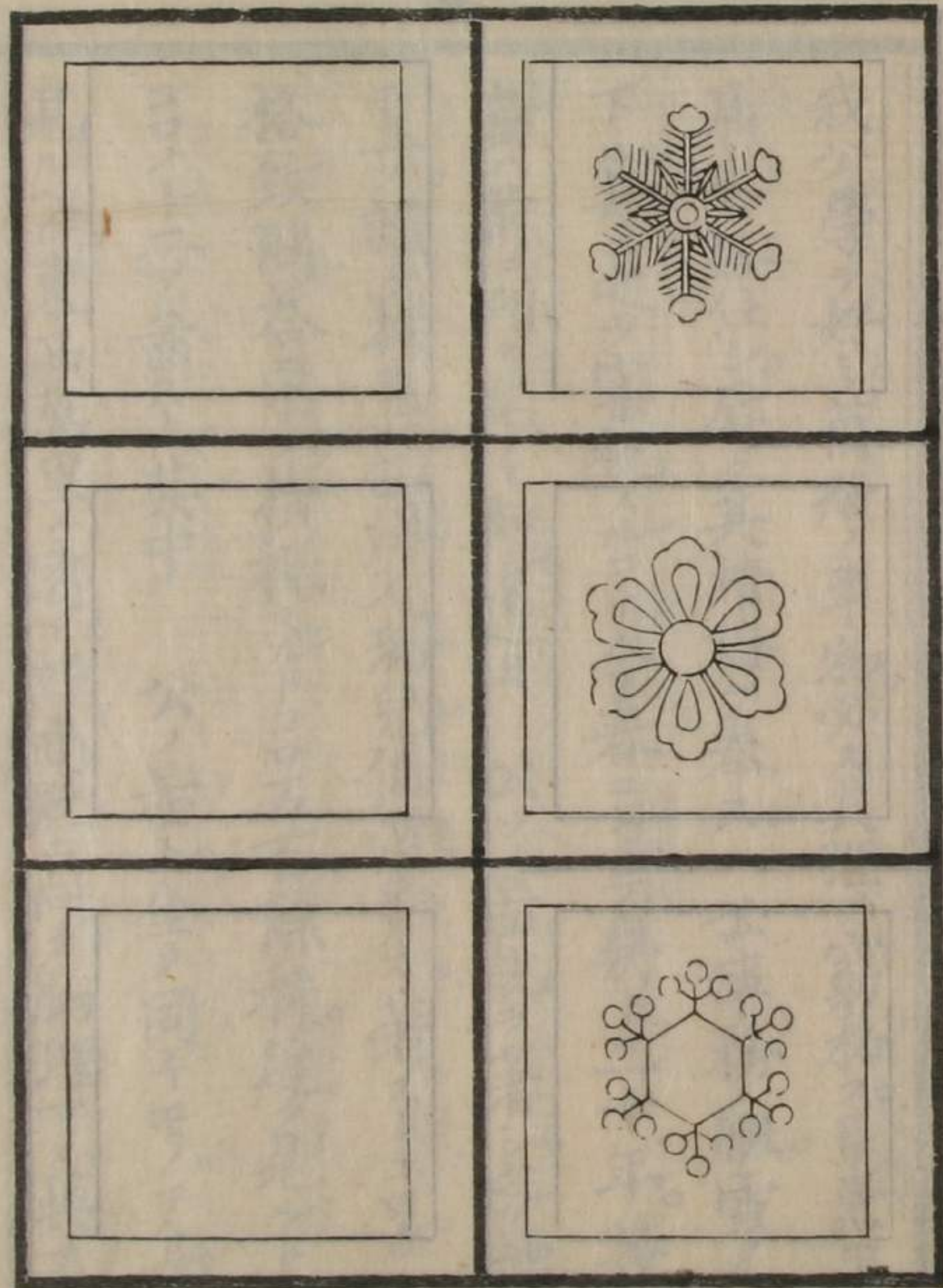
天保三年壬辰正月三日五種





九

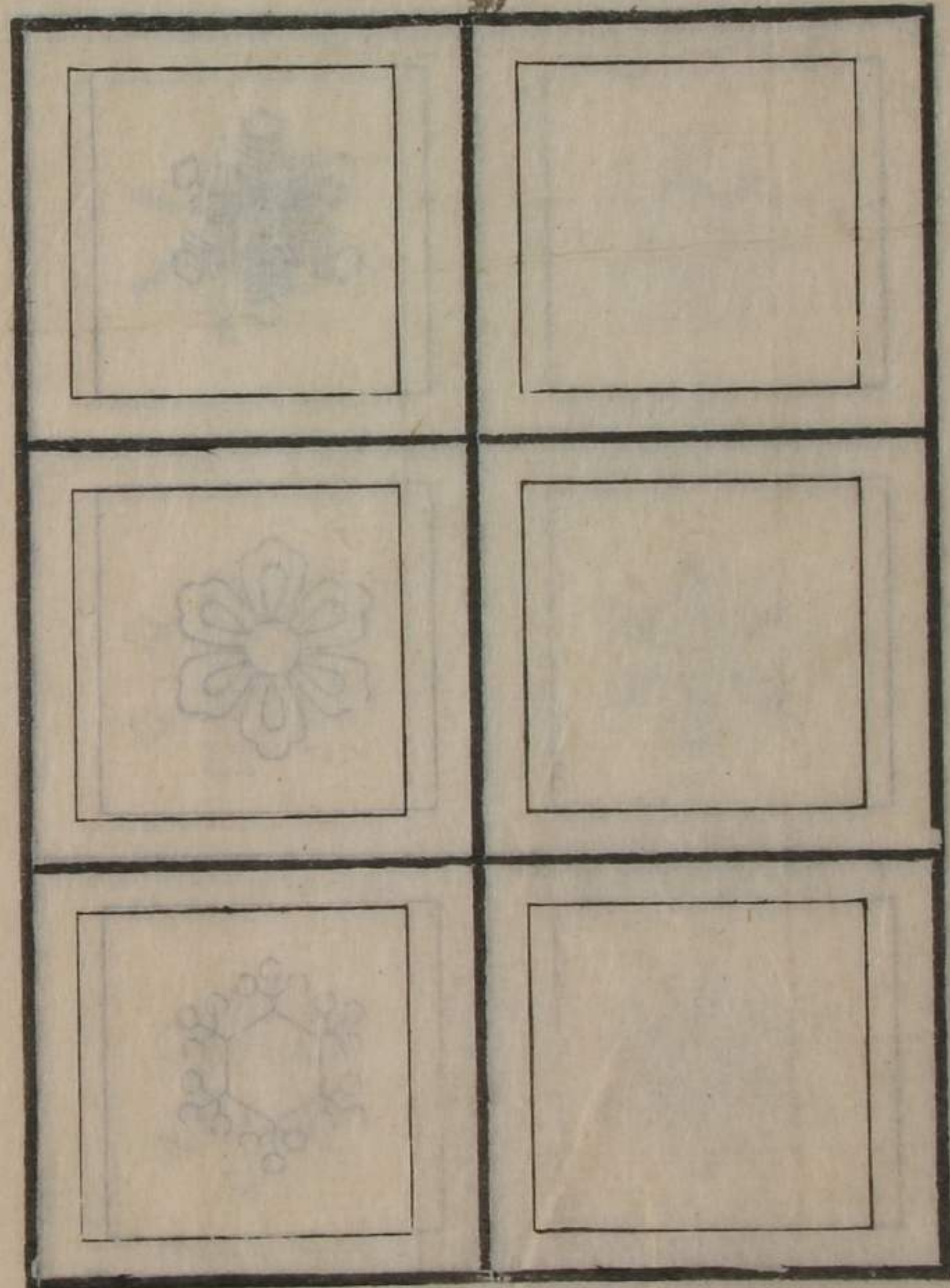


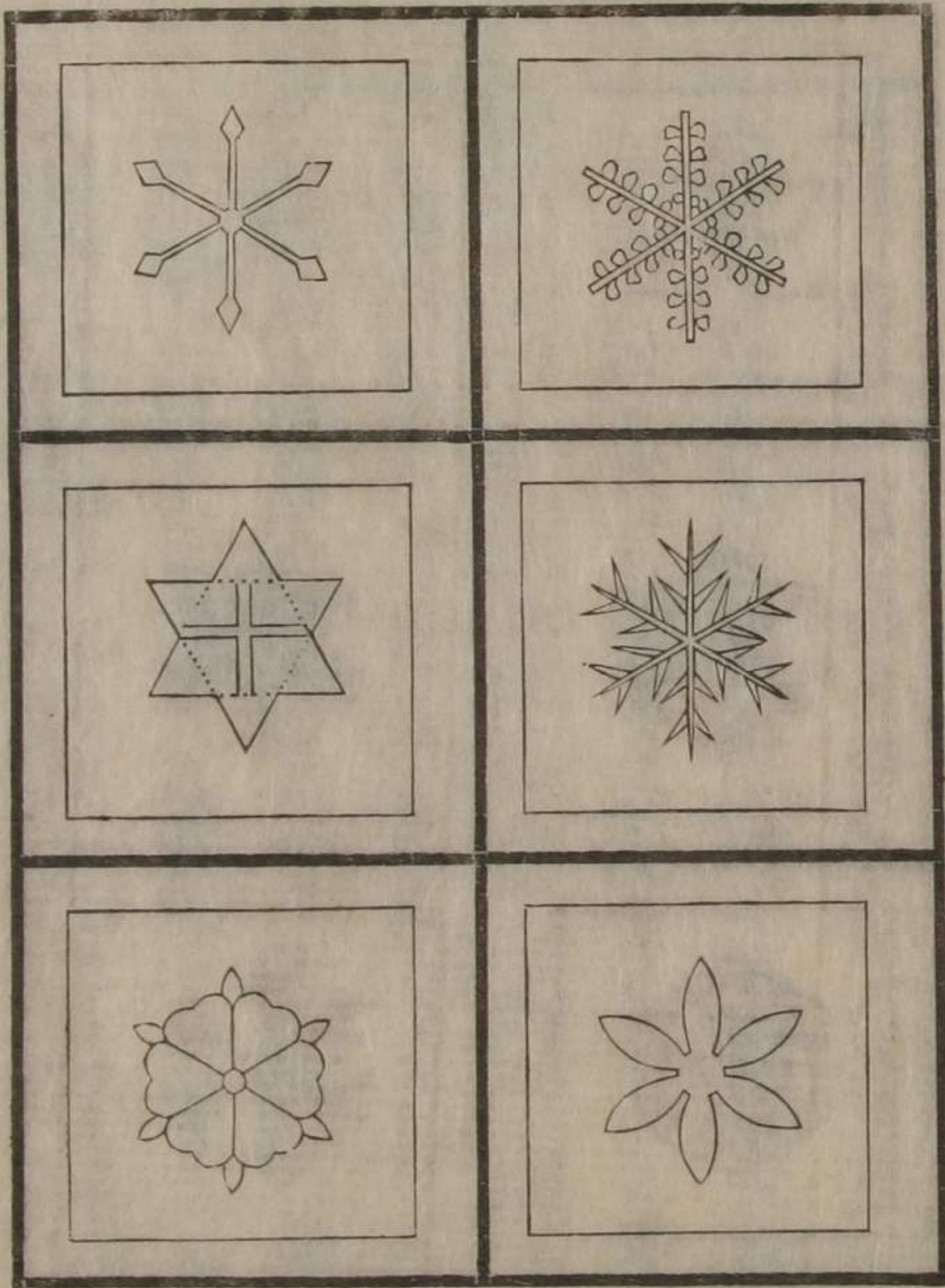


1100

1100

我公學ヲ好ミ萬般ノ事物必ス其理ヲ究窮格ス。臣忠常  
 晨昏給仕シ辱ク其清誨ヲ奉ス。公事務ノ暇雪ノ  
 下ル毎ニ之ヲ審視スルコト。今春ニ至テ幾ト二十年。其  
 畝ハ前ニ列スルモノ如シ。近日公ソノ畝説ヲ著シ之ヲ梓  
 ニ上ス。謹テ按スルニ西洋人瑪兒低涅多カ著ストコロノ  
 格致問答ニイフ。檢視スルトコロ五百餘種。近ク見ルト  
 コロ十二ヲ畝スト。其中公ノ畝ト全ク同キモノアリ。  
 見ルヘシ。東西萬里ノ遠モ好尚既ニ同ク。物理マダ異ナ



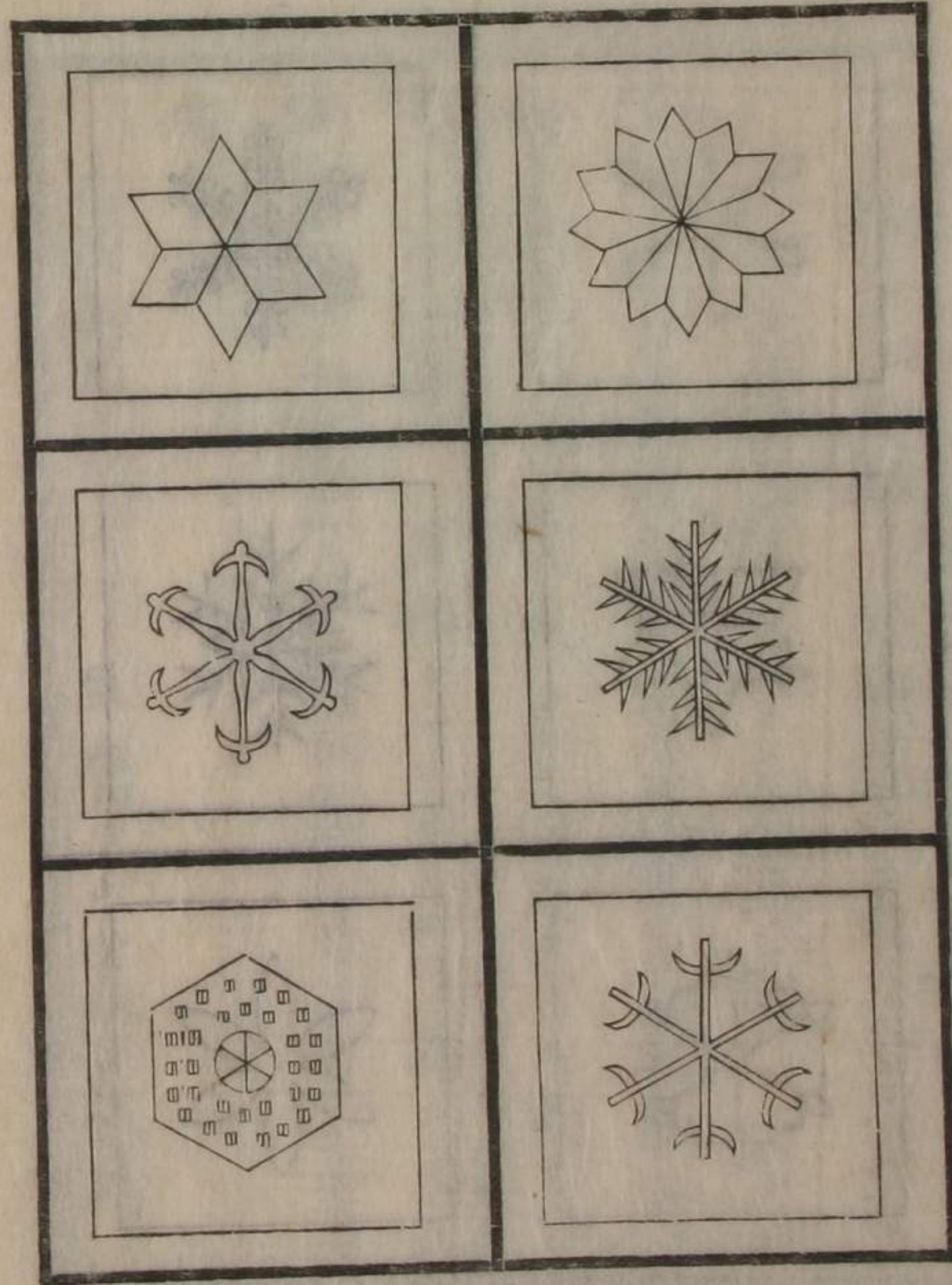


ルコト無キコトヲ其説ハ 公ノ總說中ニ在リ今只其圖  
 ヲ左ニ列ス桂君翠藍 公ト交リ厚シ故ニ 公之ニ  
 校訂ヲ請ヒ且其後ニ跋セシム尔後雪ノ下ル時新奇  
 形ヲ檢視スルコトヲ得ハ更ニコレヲ補足スルヲ期ス嗚  
 呼 公ノ此舉 我邦イマク有ラザル事ニシテ又  
 格物ノ端ナリ覽ルモノ虚假不急ノ事ニ等フスルコト  
 勿レト云

壬辰重九之日 臣鷹見忠常拜手恭識



兩間ノ萬物。半箇モ所用無ク。無シソノ之ヲ享ルノ  
 人。但ソノ聲色香味ヲ啣美シ。却テ真實ノ用ヲ知覺  
 セス。人ノ物ニオケル。既ニソノ真ヲ知テ。ソノ理ヲ  
 窮メ。マクソノ聲色ヲ愛スルトキハ。物ソノ究ヲ免  
 レ。人モ之ニ溺ルルノ患無シ。風花雪月ノ如ク。人命  
 ノ係ルトコロ。最大ナリ。シカルニ。亦茫然省悟セス。  
 盖人情。浮華ヲ喜ヒ。沈實ヲ疎ム。不才國寧。嘗テ中西  
 ノ諸籍ヲ讀テ。粗雪花ノ說ヲ知リ。ソノ功ノ偉ナル



ヲ感ス。ソレ高樓ニ珠簾ヲ揭ケ。重幄ニ肉屏ヲ擁ス  
ル。富兒ノ事。固ヨリ論ヲ煩ハサス。貧人我儕ノ如  
キモ。マタ扁舟ニ浮ヒ。蓑笠ニ歩シ。茶ヲ煮。詩ヲ吟シ  
テ。訪戴驢背ヲ唱ヘ。風流脱灑ヲ事トスルコト。誰カ得  
テコレヲ御カン。而トモコレ虚ニシテ實ナシ。豈理ヲ  
知り。性ヲ窮テ後。コレヲ賞翫スルニシカンヤ。按ス  
ルニ。雪片六出ノ名ハ中華ニ昉リ。韓詩外傳ヲ初トス。中華百般ノ事  
件。ソノ原始。他州ニ先タツモノ多シ。六花ノ名。マタソノ一ナリ。圖ハ西洋ニ昉ル。致

問答ニ  
出ツ。我邦ニ在テハ。イマタ雪花ヲ詳認スルモ  
ノヲ聞カス。近年知ヲ古河侯ニ辱ス。驩晤ノ際。益  
ヲ得ルコト甚多シ。中ニ就テ雪花ノ圖ヲ觀ルコト  
ヲ得テ。神目ヲ驚カス。精妙西番ニ超ユ。古来我邦  
イマタ曾テ有サルノコト。侯始テ之ヲ發ス。獨  
我邦ノミナランヤ。其精其詳。海外ノ人。マタマサニ  
三舍ヲ退ントス。之ヲ謾然聲色ニ耽ルニ比スレハ。  
ソノ懸隔如何ソヤ。況ヤ。侯富ニ居。貴ニ位シ。耳目

ノ欲求テ得サルコト無シ。然ルニ意ヲ日新ノ學ニ  
留メ攷ヲトシテ倦マス。兀々トシテ年ヲ窮ムルコ  
ト。殆ト貧儒寒生ニ侔シ。豈敬服セサルヘケンヤ。  
今歲壬辰。侯ノ畝五十五種ニ及ヘリ。之ヲ請フ  
者少ナカラサルニ因テ。刻シテ冊子トナシ。余ニ言  
フ徵スソレ。侯既ニ親自之ヲ驗視シ。又中西ノ說  
ヲ參酌シ。東討西求。搜羅殆ト盡キ。精說詳釋。明備  
遺スコトナシ。豈余カ言ヲ贅セシヤ。但余 侯ノ知

遇ヲウケ。且好學ノ厚ヲ感シ。辞セント欲シテ得ス。  
マク敢テ辞セス。聊二律ヲ呈シ。一ハ 侯ノ說ニ得  
テ。雪ノ功ヲ賞シ。一ハ此盛舉ニ與ルノ喜ヲシルス。  
如絮如花集小園。霏霏密密又翻翻。飛空處致空中  
潔。積地時成地下温。凝結千秋護。嶂頂解。斯萬古養  
川源。稻田麥隴足津潤。處處喜聞擊壤喧。  
密雪畝成列綺紋。細觀一一駭新聞。珍篇高矣絕雲  
鳳。拙語幸哉附驥蚊。石鼎煎茶詠素練。珠簾温酒醉

紅裙世間賞翫多如此。窮理論真獨有君。  
天保三年龍集壬辰秋七月翠藍桂國寧謹撰

龍齋文庫

土井利位

下總古河藩主、天保十年ヨリ弘化二年ニ至ルマテ幕府老中タリ。

雁島見忠常

十郎左衛門、泉石ト号ス、蘭学ニ通ス、土井家重臣。

桂川甫賢

名ハ国寧、翠藍又桂嶼ト号ス、蘭方医家。

追記

雁島見泉石、逸傳ハ史學雜誌卷十七及十八篇ニアリ  
土井利位、先中多ク間、天保九年九月ヨリ弘化元年十月迄ナリ

新古書廉價販賣  
古本最價確實買入  
松文堂書店  
東京神田小川町七  
本古及本新

